

肺腺癌におけるアポトーシス関連遺伝子 Bax inhibitor-1 の発現(10 病理1, 第46回 日本肺癌学会総会)

著者	田中 良太, 内原 照仁, 飯嶋 達生, 森下 由紀雄, 呉屋 朝幸, 野口 雅之
雑誌名	肺癌
巻	45
号	5
ページ	510
発行年	2005-11-05
権利	特定非営利活動法人日本肺癌学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00128133

O-55 肺腺癌におけるアポトーシス関連遺伝子 Bax inhibitor-1 の発現

田中 良太^{1,4}・内原 照仁²・飯嶋 達生³・森下由紀雄⁴
呉屋 朝幸⁴・野口 雅之³

¹群馬県立がんセンター 呼吸器外科；²琉球大学医学部附属病院 第一内科；³筑波大学大学院 人間総合科学研究科 診断病理学；⁴杏林大学 医学部 外科

【目的】プログラム細胞死,あるいはアポトーシスの制御は正常組織の分化や組織のホメオスタシスの維持にとって重要な役割を果たしている。抗アポトーシス作用を有する Bax inhibitor-1 (BI-1) 蛋白は Bcl-2 や Bax に代表される細胞死調節機構に関与する新しいタイプのアポトーシス制御因子として知られている。今回,我々は肺腺癌における BI-1 遺伝子発現のアポトーシス機構への関与を明らかにすることを目的とした。【対象と方法】外科的に完全切除された肺腺癌 32 症例を対象とし,切除検体から作成されたホルマリン固定・パラフィン包埋標本を用いて, in situ hybridization (ISH) 解析による BI-1 遺伝子発現と免疫組織学的解析によるアポトーシス関連蛋白 (p53, Bcl-2, Bax) の発現との関連を比較検討した。【結果】BI-1 遺伝子発現は 32 例中 14 例 (43.8%) に認め,中でも形態学的に肺胞上皮置換性に増殖する部分を含む腫瘍においては 17 例中 14 例 (82.4%) にみられ BI-1 陽性例は予後良好の傾向があった。一方 p53 蛋白, Bcl-2 蛋白,そして Bax 蛋白の陽性率はそれぞれ 34.4%, 3.1%, 81.3% であったがこれらのアポトーシス蛋白の発現と BI-1 遺伝子発現の間に有意な相関はみられなかった。【結語】BI-1 遺伝子発現は肺胞上皮置換性増殖を示す高分化な腫瘍細胞に限局してみられたが,他の発育形態学的なパターン (例えば,乳頭状,腺管状,あるいは充実性) を示す腫瘍細胞には認めなかった。このように, BI-1 遺伝子は肺腺癌,特に肺胞上皮置換性増殖型を示す腫瘍におけるアポトーシス経路の制御に関与していると考えられた。